

創立拾五周年記念日食講演會・總會報告

創立拾五周年記念總會は、十一月九日(土)正午より大阪市大阪毎日新聞社大講堂に於て、數百名の參會者を迎へ、盛大に催された。日食大講演會、日食展覽會及び地方より參集せる多數の委員による日食對策委員會の後を受け、會場を土佐堀大同ビル内の太平洋軒に移し、19時より晚餐會と共に、華々しく開かれた。

經濟都市大大阪の中心地帯とて、附近は大建築物が群立し、街路には交通機關が全能力を擧げて、繁忙の營みを續けてゐるが、地階會場は地上の喧噪から離れ、少しの雜音もなく、クリーム色の壁にやはらかな電燈の光が反射し落付いた感じを與へ、卓に掛けられた純白のシーツは、清々しい氣分を與へる。側面窓際には、今を盛りの大輪菊花の花瓶が一面に並べられ、卓上には小輪の黄菊白菊が色とりどりに溢れるばかりに盛られ、卓上せましと並べられて、馥郁たる香氣は空一ぱいに漂ひ、さながら菊花壇の内なるが如くである。正面上段には少さな花瓣が密集し、重なり合つた大輪純白の佳麗なる菊が、五六輪飾られてゐる。これは“銀河”といふ名の菊で、今日の會合を喜ぶが如く、絢爛と輝いてゐる様である。これ等の菊は全部大阪支部幹事大口氏の厚意により府下西野よりわざわざ今日の總會の爲に運ばされたものである。

會員諸氏は三々五々、毎日新聞社より會場へ到着。丁印形に並べられた卓の正面中央に山本會長、兩脇に水野副會長、百濟理學士、前田氏、宮森氏が着かれ、天文臺柴田理學士、公文理學士、木邊氏、更に遠く静岡より出席された清水氏、和歌山よりの小嶺氏の御顔も見へ、京阪神四十餘名の會員の笑顔が揃ふ。協會の池田氏、高城氏、大阪の大口氏、西森氏、伊達氏が種々お世話下さる。

19時、宮森氏の御發言により、滿場拍手裡に、創立以來の會員であり且つ大阪支部幹事として、永年盡力された前田徳次郎氏を座長に推し、座長の御指命により、水野副會長が創立拾五周年を迎へた協會の創立當時の話をもつて、開會の挨拶とされる。續いて胸に純白のバラと赤のリボンを飾られた山本會長が立たれ、協會が今日に到るまでに數度も危期のあつた事を述べら

れ、最近一般の天文への關心が次第に昂まり、特に京阪神を中心とする關西に、天文關係の團體的活動や、事件の活潑に起る事、更に最近の北支、滿洲、朝鮮の御旅行によつて得られた新興滿洲國の天文學への進出を話されこれらの天文臺への影響、天文臺を通じて協會への影響の大なる事を述べられ協會の前途は今や洋々たるものであると結ばれる。次で池川會計監督は配布された印刷物により、昭和九年度及び昭和十年十月現在の詳細なる會計報告をされ、承認を求め、會計上から會が次第に隆盛に向ひつゝある現況を話される。付加へて“天界”に日食、標準時其他時事問題に就ての記事を掲載するために、現在より一步進め近い内に同誌を新聞紙法による刊行物とする旨の喜ばしき計劃を發表せられる。次いで、協會の實務を執られる高城氏立たれ、觀測部費改正案の説明をされ、最近の地方支部の活躍、會員増加狀況等會務報告あり。これらの話により十五周年を迎へた協會が、伸び行く協會であり、輝やかしき前途を持つものなる事を良く了解し、會員一同歡喜に燃へる。

これより、晚餐會に移りつゝ話を進める事となり、ボーイ、少女の手によつて料理が運ばれる。座長の御言葉により、百濟氏立たれ、大阪支部の歴史最近の狀態に就て語られ、配布された大阪支部規定、大阪支部會員名簿により、今度大阪支部の強化として、協會より精選された大阪地方委員によつて組織する委員會によつて大阪支部の事業を遂行する旨と、その事業に就ての説明をされる。更に座長より、大阪市内に存在する支部の紹介を求められ、市岡支部に就て、三澤氏が支部の創立、設備せる機械、行なつてゐる事業に就て述べられ、豊中支部に就て笹部氏が沿革、現況及び同市内の中等學校支部として、市岡支部と連携して進む事となつた事を話される。A. A. R 支部に就て西森氏が同會の目的、事業、歴史を紹介せられる。

續いて地方支部の紹介に移り、先づ第一號支部として、古い歴史を持ち、倉敷天文臺を經營し、講演會を開き、盛んに活動してゐる岡山支部に就き、水野副會長が述べられる。次いで京都支部・京星會の組織事業の印刷物が配布され、宇野氏立ち、京都支部と京星會、京星會の創立より今日まで、將來への希望、第二年度事業の説明あり、本部他支部の援助指導を乞はれる。更に紀伊支部小槇氏は支部の所在地が地理的に惡條件の爲振はず、最近何等支

部としての事業を行なつてゐないが、近い内に支部を和歌山市内に移し、大いに活動を計劃中であると述べられる。其他出席地方支部の紹介が終り、山本會長がニュースとして、最近受信された御手紙により、他地方の状況の紹介をされる。松山支部は十月に大々的に展覧會講演會を開催し、堂々新聞に大記事を出され、東京支部は五藤氏が最近御多忙との事、最後に悲しい知らせとして日本の誇る十五年間の太陽觀測者三澤氏が、最近胃癌で東京帝大に入院され、手術を受けられたが、経過が芳しくなく氣掛りであり、何か會として御見舞の方法を講じたいと話される。この御話は青天の霹靂、いたく會員を驚かせ氣を引き、直ちに宮森氏より御見舞電報發送の動議がなされ“ゴゼンカイライノルトウアテンモンキョウカイ”なる電文が讀み上げられ、會員一致可決、東京の空に氏を思ひ、御全快の一日も早からん事を祈りつい發信される。

宴は酣となり、遠來再會の諸氏の間に交歡が進む、和氣藹々、卓の右端より自己紹介が初まる。天文に興味を持つ點共通ながら職業年齢に種々多大の差をもつ集りであり、自己紹介には面白い處が飛出す。又自己の経験から天文研究や觀測への進言あり、天文普及に就き、“天界”形式の希望あり、甚だ意義深く聞かれる。自己紹介が終る頃宴も終りに近ずき、豫てより募集されてゐた協會のバツヂ、スタンプ圖案の應募四十數點が別机の上に並べられ會員の投票により決定する事となる。採色美しきものあり、天文臺、天體を取り入れ考へたものあり、投票の結果、バツヂは大阪市西森氏作、スタンプは京都市宇野氏作のものと決定、發表される。兩氏とも出席されてゐて拍手と祝ひの言葉を贈られる。

記念撮影が済み、席に着いて、デザートコースに入り、宮森氏の十五周年記念總會を、かく盛大に愉快に開く事を得た喜びとこの會が特に大阪の若い大口氏、西森氏の努力に負ふ點が多い事を話され、閉會の挨拶をされる。山本會長は來年の總會を或る事情で、もう一度大阪で開き度いが來年まで待たずプラネタリウム、生駒天文臺の完成により臨時總會を開く事になるかも知れぬと話され、宮森氏はプラネタリウムの開館式には、全日本の協會員を全部、大阪市に集める事にしませうと叫ばれ、22時萬々歳の裡にこの盛大なる總會の幕は閉じられた。

(宇野生)